

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38701000281
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットいよ
所在地	伊予市米湊855番地11
自己評価作成日	平成22年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【ありがとう】暮しの中でこれほど温かい言葉は他にありません。あ・は【愛情で】り・は【理解する】が・は【頑張りが】ら と・は【共に生きていく】う・は【嬉しい日々】にみんなで、あ・り・が・と・う。誰でもいろんな背景の中で生きている。だからこそ共に支えあって、これからも生きて行きたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は、法人全体としての「理念」と事業所の年度毎の「目標」を名札の裏に入れ、常に確認しながらケアを実践している。管理者や職員は、利用者に対し笑顔でやさしく声かけをするなどの基本的な姿勢を意識しており、研修等へ積極的に参加してケアの技術を習得するなど、利用者の穏やかな生活を支援するため努力している。管理者と職員は、意見を言い合えるよい関係が構築されており、常に利用者本位にケアが提供できるよう取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 ユニット・ワン

(ユニット名) グループホーム ユニットいよA棟

記入者(管理者)

氏名 三浦 洋子

評価完了日 平成22年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所内の理念は職員の出勤時、意識付けが出来る様に玄関やフロア・A棟・B棟掲示版にはってあります。又、自分達の言葉で理念を実行するための事柄を、ネームプレートの裏に書いて入れています。自分たちの言葉は、毎年年末に内容を変更したり、言葉を付加している。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基に毎年度の目標を立て事業所内に掲示すると共に、職員一人ひとりの名札の裏にも入れ、常に意識できるように工夫されている。理念や目標は、職員間で共有し合い、具体的な実践に繋げることができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) いつでも挨拶を・・・から始めています。灘町の町内会への加入・行事参加、ユニットいよ入口の伝言ボードは町内からの希望で設置したもので、地域とユニットいよの情報交流の場として活用している。自衛消防団の方との交流もしている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し地域の情報を得ている。また、事業所横に伝言ボードを設置し事業所からのイベント案内や、状況報告を掲示している。地域行事に積極的に参加し、地域の方にも事業所に来てもらうなど日常的に交流が図られている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2項目に関連。伝言ボードは地域とユニットいよの交流の場。地域のイベント情報や、ユニットいよの情報などそれぞれの話題の提供の場になっている。地域の研修の認知症サポーターも受講。オレンジリングも所持している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では【ユニットいよ通信】という毎月家族に送っているお便りを見ていただいたり、利用者と屋上でお茶タイムを楽しんだりして、出席の方に日常生活の一部を見ていただくなどの交流に努めている。今年は、避難訓練への参加もありました。	
			(外部評価) 会議は定期的に開催している。事業所の実態報告や行事案内、時には事業所の行事と合わせて開催し、利用者の様子や行事の内容等を実際に見てもらい意見を得ている。出された意見は運営に活かすよう心がけている。職員へは朝礼で申し送りをし情報を共有するようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所へは介護保険の更新や手続き等で出向く事も多く挨拶などで顔見知りになっている。問合せに、利用者や出かけたりしている。市役所案内に置いてある伊予市の広報誌を持ち帰り、いろいろな行事等にも利用者と目を通している。	
			(外部評価) 市の担当者とは運営推進会議を通じて、意見交換や情報収集を行っている。また、要介護認定更新の機会などを利用し、市担当者に利用者の暮らしぶりやニーズを伝え連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 見守りに努める事で、身体抑制はしない方向で取り組んでいる。施錠に関してユニットいよ3階は本社・鍼灸部・居宅支援事業所などがあり防犯などの意味も含めてインターホン対応としているが、ユニットいよ内は開放している。	
			(外部評価) 建物の構造の関係で、1階玄関の自動ドアはインターホンで確認してから開閉するようになっている。利用者の様子を見ながら、さりげなく声をかけ一緒に外出するなど見守りのケアを実践している。また、言葉での拘束をしないように注意を払い取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待を視線・言語・対応態度等広義の視点からとらえて防止に努め、マニュアルも作成している。職員同士でもお互いに声を掛け合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の制度は利用者を守る事。ひいては自分自身も守る事となる。サービス向上委員会（権利擁護・成年後見制度）への研修参加で職員にも報告、理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 基本的に契約等は誤解を生じないように、入居希望者・家族・職員共に説明の際は複数出席としている。内容の改定があった場合は【ユニットいよ】通信で報告したり内容をプリントして発送している。（質問事項については、電話・来所時いつでも受ける旨も記載している。）	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者・家族からの質問・意見・要望はその都度連絡をして説明をしている。運営推進会議でも、報告・相談の機会を作っている。その経過は情報の共有も含め必要に応じて職員へのミーティングも行なっている。 (外部評価) 家族の来訪時、利用者の生活の様子や事業所での状況を伝え、要望や意見を聞くようにしている。また、行事などに家族が参加しやすいよう配慮し、意見を言いやすいように環境を整えている。出された意見や要望はミーティングで話し合い運営に反映できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員からの意見や要望については、適宜ミーティングを行い、その内容を本社とのホーム長会議で提案している。3階が本社なので上司との接点もあり、リラックスして職員からの要望・希望について話をする事もある。 (外部評価) 管理者は共に介護に携わっているため職員と話し合う時間や場面が多く、職員からの意見や提案を真摯に受け止め、職員と共に事業所を良くしていこうと努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 本社が3階にあるのでお互いがよく見えており上司から指導もあれば、ほめ言葉もあり、コミュニケーションは取れている。代表者が職員を理解しようと声掛けをよくしてくれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ほめて伸ばす。苦手は克服するための手段の一つとして情報提供。必ずしも全員が満足いく環境や条件ではないが、それを補う努力を代表者は考えている。(研修参加への協力・自由な意見交換・職員の発想や提案への理解など)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修で顔をあわせたり情報交換したり。地元出身職員も多く、日常的に接点もあり、交流の場は至る所で自然に出来ている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 笑顔を忘れず、穏やかに話をすすめる。利用者の表情を丁寧に読み取る。共に生きるをモットーに傾聴・共感に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初対面から内容説明・契約・利用・・・とそのプロセスの中で、お互いが理解できるよう時間をかけて話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今望んでいる事や将来的な事も含めて、臨機応変・優先順位の把握などがより早くより深く出来るように心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 伊予市内で地域密着型、利用者・家族・職員それぞれに馴染みのある事で良い関係になれるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 傾聴・共感そして歩みよる心。理解しようとする気持ちにたくさんの協力がうまれてくるし、相手の立場になれば思いがけない部分の発見にもつながる。そういう関係を築いている。又、家族にも行事などのお知らせをして、参加して頂くように依頼している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域密着のプラスとマイナスをきちんと見極めた上で、介入のボーダーラインをわきまえるように努めている。 (外部評価) 利用者の殆どは、所在地周辺の方が多く馴染みの方や、近隣の方が気軽に訪問してくれる。本人が大切にしてきた人や場所についての情報収集に努め、今までの関係が継続されるよう配慮して支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 20項目に関連して、利用者自身が馴染みの方達と共同生活していく中で喜怒哀楽を感じ、共生していくことの理解へつながる方向をさがしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 地域密着の良い点は、例え契約終了でも何らかの関連を持って関わる日々のあること。その意味合いでも訪問や電話・お見舞いは続いている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 全ての原点はまず相手を理解する事。相手の背景を把握していく中で見えてくる事がたくさんある。心や言葉はその時々で変化する事もあるが、どこかに見え隠れしている本音を探し出すように努めている。	
			(外部評価) 職員は常に利用者本位に考え、ケアを実践している。利用者一人ひとりの日頃の言動や表情などをよく把握しており、変化のある時にはさりげなく聞き取るなど対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員に地元出身者が多い事で、共有する情報が広がって、サービスに結びついている事がある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) コミュニケーションを取る事で、思いがけない潜在能力や発見がある。個性を理解しながら、共生できる方向へ努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意向を聞いた上で誰もが納得できる言葉で介護計画をたて、年齢を考慮してプランニングの方向を探しだす事とした。実情にそった計画を優先し、ディスカッションで方向を見つけだす。その後は共有した情報をぶれないようにして次のプランへ意向している。 (外部評価) 利用者には担当者をつけており、管理者、職員が意見を出し合い利用者や家族の思いを反映した介護計画を作成している。毎月のケアカンファレンス、定期的な見直しで状況確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一つの記録に関しても、職員間で共感と疑問がある。それをカンファレンスで話すことにより、職員の歩み寄りが出来、情報の共有へとつながる。職員の共感や疑問が見直しに活かされてくる事も多い。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 突発のデイサービス利用やショートステイ利用など柔軟な対応に心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で近隣の民生委員・老人相談員・ボランティアの方・町内の方など各職種の方との交流が広がってきているので、その方達から頂く情報も増えている。それを活用する事で、利用者の日常生活にもメリハリが出来てきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所時、かかりつけ医師の確認をしています。但し、 緊急時には利用者・家族の確認・許可を得て適切な対 応をしています。</p> <p>(外部評価) 入居前からのかかりつけ医や希望の病院へ受診してい る。受診には家族に同行してもらっているが、必要に 応じて職員が対応している。また、法人代表者が医師 であり定期的な往診も行い、専門医への受診等が必要 な場合には適切な医療が受けられるよう支援し、利用 者の健康管理に努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者の既往・疾病に応じて定期的に受診・往診があ る。その際健康相談をしたり、指導を受けて健康管理 に努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、利用者⇄家族⇄病院⇄職員⇄ユニットいよ で連絡はスムーズに行えるよう、緊急連絡網を作っ ている連絡ノートの用意やお見舞い時にナースステ ーションに顔を出すなどして情報交換して、会社・職員 に報告をし情報の共有に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に将来的なことも含めて、終末期に向けた指針 の書面を提示している。昨年度より利用者・家族の希 望を中心に内容の充実を会社ぐるみで検討している。 しかしすべてが書面で済む事ではないので、入居中の 日常生活において人間関係の構築に努めている。</p> <p>(外部評価) 重度化及び看取りに関する指針を作成しているが、現 在は重度化や看取りケアには対応していない。事業所 として重度化や終末期について方針を模索している段 階である。管理者や職員は利用者や家族が希望すれ ば、将来的には住み慣れた事業所で安心して最期が迎 えられるよう学習を深めていきたいと考えている。</p>	<p>直接ケアをしている職員は、看取りに関して大きな不 安を感じている。早い段階から、本人家族と話し合い 事業所で終末期を支えていくための学習を期待した い。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルは会社作成の物と、自分達の体験に基づいた言葉で創った物と2部ある。利用者の年齢を考えると急変は常に心に留め置いている。マニュアルはすぐに目のつく所に準備し、日常の中で緊急時を想定しながら、日々学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ユニットいよは2階にあるので水害時は3階への避難が可能だが、火災・地震は困難と予想される。1年に2回の避難訓練を計画・実行している。本年度は自分達の課題に地域の方を巻き込んでの昼夜の避難訓練を計画、6月・10月に実践できている。 (外部評価) 消防署の指導の下で日中や夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。運営推進会議を活用して地域の消防団、近隣の方と共に訓練が実施できるような協力体制が構築されている。また、災害時には事業所の3階を地域の避難場所として提供しており、実際に地域のお年寄りに避難してもらったことがある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者自身の背景を理解していく中で、その人となりが見えてくる。干渉や強制にならないように、職員間の話し合いも適宜行っている。 (外部評価) 一人ひとりを尊重した丁寧な声かけや、態度で接している。自分のペースで食事している利用者を急がせる事なく見守っている。また、車いすの利用者がトイレを利用する際には外から見えないようスクリーンを使用するなど、利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 私達の目標の中に、利用者の“自立支援に努めます”を入れました。普段のコミュニケーションやふれあいの中から、さまざまな思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の希望は最優先ですが、ここは共同生活の場であるという理解をもって頂く事も大切な部分なので共生をお願いしています。利用者同士が協調や共感や助け合う気持ちを自然に言葉に出来るように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 鏡の前の自分を見るのは歳に関係なくときめくのでは。朝起きて鏡の前で髪をとかしたり、髭剃りを使っている姿はとてもさわやかです。小物（櫛・歯ブラシ・ピン）は洗面所や居室等利用者のお気に入りの場所においてある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の楽しみの一つ。担当者からの誕生日プレゼントの食器を自慢したりなどして、話題の一つになっている。好物への食欲、苦手なものへの挑戦、共同生活ならではのとらえ方ですすめ上手な利用者に助けられている部分も多い。準備・片付けはその日の気分で交代に利用者同士が声をかけあって分担している。 (外部評価) 職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。食事風景は大変穏やかで何度も「美味しい、美味しい」という声が聞かれた。食後の片付け時、職員と利用者が一緒に楽しく歌を歌いながら洗い物をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主治医師による食事摂取量の確認・排便・朝夕バイタルチェック・体重の増減（毎週日曜体重測定）チェック等行っている。水分量は個別記録に記載、ケアプランにも取り入れている。食事量がおちた時は主治医師に報告し指示を受けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後3回のハミガキ、夜間帯の入れ歯洗浄も利用者や就寝前のケアとして丁寧に行っている。必要に応じ歯科診療も家族の協力、確認のもとで行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツ・ポータブル・トイレは利用者のその日の体調に合わせて、確認を取りながら臨機応変に対応している。基本は笑顔での対応としている。入浴・排泄の援助は、出来るだけ同性介助としている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を決めて声かけや誘導を周囲に十分配慮しながら行っている。日中は、トイレでの排泄を支援している。夜間は利用者の状況に応じてオムツ、リハビリパンツ、ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 1ヶ月の排便チェック表を作り、医師・看護師の指導のもと、利用者に合わせて運動や食事内容の変更・服薬の把握などに努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1日の流れはありますが、基本は利用者の希望を優先している。但し、体調確認・声かけをして納得をした上で、一緒に入浴準備をして入浴している。お風呂の窓を開けると伊予の海が見えるので、夏場は外の景色も楽しみのひとつ。時には利用者・職員が一緒に入ります。	
			(外部評価) 週2回は入浴できるようにしている。入浴を拒む方にはタイミングに合わせて声かけし、入浴できるよう対応を工夫している。また、楽しく安心して入浴ができるよう管理者が一緒に入った事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中を穏やかに過ごして頂く事で、安眠に繋げている。利用者と一緒にシーツ交換・布団干しなどを行い、安心して気持ちよく眠れる状況を作っている。不眠の時や、気持ちが落ち着かない時は、状況に合わせて側と一緒に休む事もあります。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の既往症・服薬について看護師に質問したり、お薬手帳を確認している。屯用薬が出た場合、申し送りをきちんとしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりに担当をつけて話の時間を取り、会話する事でよりその人を理解している。レクリエーションや、買い物・散歩など生活の中にメリハリをつけるようにし気分転換などの支援に結びつけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出・散歩などは、近くの五色浜海岸・伊予灘防波堤・町家・灘町商店街をゆっくりと歩いたり、車椅子で出かける。春は【ゆったり・ゆっくり・お花見バイキング】秋は【ゆったり・ゆっくり・紅葉狩りバイキング】をドライブを兼ねて利用者2名・職員2名で行っている。 (外部評価) 全体的に重度化傾向であり、外出が困難となってきているため、体調を考慮しながら屋上に上がり少しでも外気に触れることができるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望にあわせて、日用品やおやつなどを利用者・職員が交代で買い物にでる。ユニット内に、おやつショップを開いて買い物をしていただく事もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は各居室に設置している。季節に合わせて年賀状や暑中見舞いはがきや手紙等を利用者が書いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) カーテンは二重にしている。壁には利用者の写真や作品などを貼っている。テーブルの上は、出来るだけ季節の花を用意して話題の提供にも努めている。	
			(外部評価) 明るく広い居間には和室コーナーもあり、利用者が思い思いの場所で寛ぐことができる。壁には利用者と職員が一緒に製作した作品や行事などの写真が飾られている。アットホームな居心地の良い空間づくりを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 屋上の涼み台・和室・玄関フローアなど、自由な空間を用意している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に好きな家具・道具・品物等は持ってきて頂いて自由に設置をすすめている。居室は、本人の自由な空間なので危険がない限りは干渉はしていない。	
			(外部評価) 居室入口に今月のカレンダーと分かりやすい名札がかけられている。備え付けのベッドやダンス、エアコン、電話の他、利用者の使い慣れた家具や愛用していた物品が持ち込まれ、家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・風呂場の立位バー・廊下の手すりなど、必要に合わせて設置や表示している。日常生活の中で気づきがあった場合は本社に相談する事がある。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38701000281
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットいよ
所在地	伊予市米湊855番地11
自己評価作成日	平成22年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【ありがとう】暮しの中でこれほど温かい言葉は他にありません。あ・は【愛情で】り・は【理解する】が・は【頑張りが】ら と・は【共に生きていく】う・は【嬉しい日々】にみんなで、あ・り・が・と・う。誰でもいろんな背景の中で生きている。だからこそ共に支えあって、これからも生きて行きたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は、法人全体としての「理念」と事業所の年度毎の「目標」を名札の裏に入れ、常に確認しながらケアを実践している。管理者や職員は、利用者に対し笑顔でやさしく声かけをするなどの基本的な姿勢を意識しており、研修等へ積極的に参加してケアの技術を習得するなど、利用者の穏やかな生活を支援するため努力している。管理者と職員は、意見を言い合えるよい関係が構築されており、常に利用者本位にケアが提供できるよう取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 ユニット・ワン

(ユニット名) グループホーム ユニットいよB棟

記入者(管理者)

氏名 三浦 洋子

評価完了日 平成22年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所内の理念は職員の出社時、意識付けが出来る様に玄関やフロア・A棟・B棟掲示版にはってあります。又、自分達の言葉で理念を実行するための事柄を、ネームプレートの裏に書いて入れています。自分たちの言葉は、毎年年末に内容を変更したり、言葉を付加している。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基に毎年度の目標を立て事業所内に掲示すると共に、職員一人ひとりの名札の裏にも入れ、常に意識できるように工夫されている。理念や目標は、職員間で共有し合い、具体的な実践に繋げることができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) いつでも挨拶を・・・から始めています。灘町の町内会への加入・行事参加、ユニットいよ入口の伝言ボードは町内からの希望で設置したもので、地域とユニットいよの情報交流の場として活用している。自衛消防団の方との交流もしている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し地域の情報を得ている。また、事業所横に伝言ボードを設置し事業所からのイベント案内や、状況報告を掲示している。地域行事に積極的に参加し、地域の方にも事業所に来てもらうなど日常的に交流が図られている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2項目に関連。伝言ボードは地域とユニットいよの交流の場。地域のイベント情報や、ユニットいよの情報などそれぞれの話題の提供の場になっている。地域の研修の認知症サポーターも受講。オレンジリングも所持している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では【ユニットいよ通信】という毎月家族に送っているお便りを見ていただいたり、利用者と屋上でお茶タイムを楽しんだりして、出席の方に日常生活の一部を見ていただくなどの交流に努めている。今年は、避難訓練への参加もありました。	
			(外部評価) 会議は定期的に開催している。事業所の実態報告や行事案内、時には事業所の行事と合わせて開催し、利用者の様子や行事の内容等を実際に見てもらい意見を得ている。出された意見は運営に活かすよう心がけている。職員へは朝礼で申し送りをし情報を共有するようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所へは介護保険の更新や手続き等で出向く事も多く挨拶などで顔見知りになっている。問合せに、利用者とは出かけたりしている。市役所案内に置いている伊予市の広報誌を持ち帰り、いろいろな行事等にも利用者と目を通している。	
			(外部評価) 市の担当者とは運営推進会議を通じて、意見交換や情報収集を行っている。また、要介護認定更新の機会などを利用し、市担当者に利用者の暮らしぶりやニーズを伝え連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 見守りに努める事で、身体抑制はしない方向で取り組んでいる。施錠に関してユニットいよ3階は本社・鍼灸部・居宅支援事業所などがあり防犯などの意味も含めてインターホン対応としているが、ユニットいよ内は開放している。	
			(外部評価) 建物の構造の関係で、1階玄関の自動ドアはインターホンで確認してから開閉するようになっている。利用者の様子を見ながら、さりげなく声をかけ一緒に外出するなど見守りのケアを実践している。また、言葉での拘束をしないように注意を払い取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待を視線・言語・対応態度等広義の視点からとらえて防止に努め、マニュアルも作成している。職員同士でもお互いに声を掛け合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の制度は利用者を守る事。ひいては自分自身も守る事となる。サービス向上委員会（権利擁護・成年後見制度）への研修参加で職員にも報告、理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 基本的に契約等は誤解を生じないように、入居希望者・家族・職員共に説明の際は複数出席としている。内容の改定があった場合は【ユニットいよ】通信で報告したり内容をプリントして発送している。（質問事項については、電話・来所時いつでも受ける旨も記載している。）	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者・家族からの質問・意見・要望はその都度連絡をして説明をしている。運営推進会議でも、報告・相談の機会を作っている。その経過は情報の共有も含め必要に応じて職員へのミーティングも行なっている。 (外部評価) 家族の来訪時、利用者の生活の様子や事業所での状況を伝え、要望や意見を聞くようにしている。また、行事などに家族が参加しやすいよう配慮し、意見を言いやすいように環境を整えている。出された意見や要望はミーティングで話し合い運営に反映できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員からの意見や要望については、適宜ミーティングを行い、その内容を本社とのホーム長会議で提案している。3階が本社なので上司との接点もあり、リラックスして職員からの要望・希望について話をする事もある。 (外部評価) 管理者は共に介護に携わっているため職員と話し合う時間や場面が多く、職員からの意見や提案を真摯に受け止め、職員と共に事業所を良くしていこうと努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 本社が3階にあるのでお互いがよく見えており上司から指導もあれば、ほめ言葉もあり、コミュニケーションは取れている。代表者が職員を理解しようと声掛けをよくしてくれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ほめて伸ばす。苦手は克服するための手段の一つとして情報提供。必ずしも全員が満足いく環境や条件ではないが、それを補う努力を代表者は考えている。(研修参加への協力・自由な意見交換・職員の発想や提案への理解など)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修で顔をあわせたり情報交換したり。地元出身職員も多く、日常的に接点もあり、交流の場は至る所で自然に出来ている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 笑顔を忘れず、穏やかに話をすすめる。利用者の表情を丁寧に読み取る。共に生きるをモットーに傾聴・共感に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初対面から内容説明・契約・利用・・・とそのプロセスの中で、お互いが理解できるよう時間をかけて話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今望んでいる事や将来的な事も含めて、臨機応変・優先順位の把握などがより早くより深く出来るように心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 伊予市内で地域密着型、利用者・家族・職員それぞれに馴染みのある事で良い関係になれるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 傾聴・共感そして歩みよる心。理解しようとする気持ちにたくさんの協力がうまれてくるし、相手の立場になれば思いがけない部分の発見にもつながる。そういう関係を築いている。又、家族にも行事などのお知らせをして、参加して頂くように依頼している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域密着のプラスとマイナスをきちんと見極めた上で、介入のボーダーラインをわきまえるように努めている。 (外部評価) 利用者の殆どは、所在地周辺の方が多く馴染みの方や、近隣の方が気軽に訪問してくれる。本人が大切にしてきた人や場所についての情報収集に努め、今までの関係が継続されるよう配慮して支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 20項目に関連して、利用者自身が馴染みの方達と共同生活していく中で喜怒哀楽を感じ、共生していくことの理解へつながる方向をさがしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 地域密着の良い点は、例え契約終了でも何らかの関連を持って関わる日々のあること。その意味合いでも訪問や電話・お見舞いは続いている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 全ての原点はまず相手を理解する事。相手の背景を把握していく中で見えてくる事がたくさんある。心や言葉はその時々で変化する事もあるが、どこかに見え隠れしている本音を探し出すように努めている。 (外部評価) 職員は常に利用者本位に考え、ケアを実践している。利用者一人ひとりの日頃の言動や表情などをよく把握しており、変化のある時にはさりげなく聞き取るなど対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員に地元出身者が多い事で、共有する情報が広がって、サービスに結びついている事がある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) コミュニケーションを取る事で、思いがけない潜在能力や発見がある。個性を理解しながら、共生できる方向へ努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意向を聞いた上で誰もが納得できる言葉で介護計画をたて、年齢を考慮してプランニングの方向を探しだす事とした。実情にそった計画を優先し、ディスカッションで方向を見つけだす。その後は共有した情報をぶれないようにして次のプランへ意向している。 (外部評価) 利用者には担当者をつけており、管理者、職員が意見を出し合い利用者や家族の思いを反映した介護計画を作成している。毎月のケアカンファレンス、定期的な見直しで状況確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一つの記録に関しても、職員間で共感と疑問がある。それをカンファレンスで話すことにより、職員の歩み寄りが出来、情報の共有へとつながる。職員の共感や疑問が見直しに活かされてくる事も多い。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 突発のデイサービス利用やショートステイ利用など柔軟な対応に心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で近隣の民生委員・老人相談員・ボランティアの方・町内の方など各職種の方との交流が広がってきているので、その方達から頂く情報も増えている。それを活用する事で、利用者の日常生活にもメリハリが出来てきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所時、かかりつけ医師の確認をしています。但し、 緊急時には利用者・家族の確認・許可を得て適切な対 応をしています。</p> <p>(外部評価) 入居前からのかかりつけ医や希望の病院へ受診してい る。受診には家族に同行してもらっているが、必要に 応じて職員が対応している。また、法人代表者が医師 であり定期的な往診も行い、専門医への受診等が必要 な場合には適切な医療が受けられるよう支援し、利用 者の健康管理に努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者の既往・疾病に応じて定期的に受診・往診があ る。その際健康相談をしたり、指導を受けて健康管理 に努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、利用者⇄家族⇄病院⇄職員⇄ユニットいよ で連絡はスムーズに行えるよう、緊急連絡網を作っ ている連絡ノートの用意やお見舞い時にナースステ ーションに顔を出すなどして情報交換して、会社・職員 に報告をし情報の共有に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に将来的なことも含めて、終末期に向けた指針 の書面を提示している。昨年度より利用者・家族の希 望を中心に内容の充実を会社ぐるみで検討している。 しかしすべてが書面で済む事ではないので、入居中の 日常生活において人間関係の構築に努めている。</p> <p>(外部評価) 重度化及び看取りに関する指針を作成しているが、現 在は重度化や看取りケアには対応していない。事業所 として重度化や終末期について方針を模索している段 階である。管理者や職員は利用者や家族が希望すれ ば、将来的には住み慣れた事業所で安心して最期が迎 えられるよう学習を深めていきたいと考えている。</p>	<p>直接ケアをしている職員は、看取りに関して大きな不 安を感じている。早い段階から、本人家族と話し合い 事業所で終末期を支えていくための学習を期待した い。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルは会社作成の物と、自分達の体験に基づいた言葉で創った物と2部ある。利用者の年齢を考えると急変は常に心に留め置いている。マニュアルはすぐに目のつく所に準備し、日常の中で緊急時を想定しながら、日々学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ユニットいよは2階にあるので水害時は3階への避難が可能だが、火災・地震は困難と予想される。1年に2回の避難訓練を計画・実行している。本年度は自分達の課題に地域の方を巻き込んでの昼夜の避難訓練を計画、6月・10月に実践できている。 (外部評価) 消防署の指導の下で日中や夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。運営推進会議を活用して地域の消防団、近隣の方と共に訓練が実施できるような協力体制が構築されている。また、災害時には事業所の3階を地域の避難場所として提供しており、実際に地域のお年寄りに避難してもらったことがある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者自身の背景を理解していく中で、その人となりが見えてくる。干渉や強制にならないように、職員間の話し合いも適宜行っている。 (外部評価) 一人ひとりを尊重した丁寧な声かけや、態度で接している。自分のペースで食事している利用者を急がせる事なく見守っている。また、車いすの利用者がトイレを利用する際には外から見えないようスクリーンを使用するなど、利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 私達の目標の中に、利用者の“自立支援に努めます”を入れました。普段のコミュニケーションやふれあいの中から、さまざまな思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の希望は最優先ですが、ここは共同生活の場であるという理解をもって頂く事も大切な部分なので共生をお願いしています。利用者同士が協調や共感や助け合う気持ちを自然に言葉に出来るように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 鏡の前の自分を見るのは歳に関係なくときめくのは。朝起きて鏡の前で髪をとかしたり、髭剃りを使っている姿はとてもさわやかです。小物（櫛・歯ブラシ・ピン）は洗面所や居室等利用者のお気に入りの場所においてある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の楽しみの一つ。担当者からの誕生日プレゼントの食器を自慢したりなどして、話題の一つになっている。好物への食欲、苦手なものへの挑戦、共同生活ならではのとらえ方です。準備・片付けはその日の気分で交代に利用者同士が声をかけあって分担している。 (外部評価) 職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。食事風景は大変穏やかで何度も「美味しい、美味しい」という声が聞かれた。食後の片付け時、職員と利用者が一緒に楽しく歌を歌いながら洗い物をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主治医師による食事摂取量の確認・排便・朝夕バイタルチェック・体重の増減（毎週日曜体重測定）チェック等行っている。水分量は個別記録に記載、ケアプランにも取り入れている。食事量がおちた時は主治医師に報告し指示を受けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後3回のハミガキ、夜間帯の入れ歯洗浄も利用者や就寝前のケアとして丁寧に行っている。必要に応じ歯科診療も家族の協力、確認のもとで行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツ・ポータブル・トイレは利用者のその日の体調に合わせて、確認を取りながら臨機応変に対応している。基本は笑顔での対応としている。入浴・排泄の援助は、出来るだけ同性介助としている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を決めて声かけや誘導を周囲に十分配慮しながら行っている。日中は、トイレでの排泄を支援している。夜間は利用者の状況に応じてオムツ、リハビリパンツ、ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 1ヶ月の排便チェック表を作り、医師・看護師の指導のもと、利用者に合わせて運動や食事内容の変更・服薬の把握などに努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1日の流れはありますが、基本は利用者の希望を優先している。但し、体調確認・声かけをして納得をした上で、一緒に入浴準備をして入浴している。お風呂の窓を開けると伊予の海が見えるので、夏場は外の景色も楽しみのひとつ。時には利用者・職員が一緒に入ります。	
			(外部評価) 週2回は入浴できるようにしている。入浴を拒む方にはタイミングに合わせて声かけし、入浴できるよう対応を工夫している。また、楽しく安心して入浴ができるよう管理者が一緒に入った事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中を穏やかに過ごして頂く事で、安眠に繋げている。利用者と一緒にシーツ交換・布団干しなどを行い、安心して気持ちよく眠れる状況を作っている。不眠の時や、気持ちが落ち着かない時は、状況に合わせて側と一緒に休む事もあります。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の既往症・服薬について看護師に質問したり、お薬手帳を確認している。屯用薬が出た場合、申し送りをきちんとしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりに担当をつけて話の時間を取り、会話する事でよりその人を理解している。レクリエーションや、買い物・散歩など生活の中にメリハリをつけるようにし気分転換などの支援に結びつけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出・散歩などは、近くの五色浜海岸・伊予灘防波堤・町家・灘町商店街をゆっくりと歩いたり、車椅子で出かける。春は【ゆったり・ゆっくり・お花見バイキング】秋は【ゆったり・ゆっくり・紅葉狩りバイキング】をドライブを兼ねて利用者2名・職員2名で行っている。 (外部評価) 全体的に重度化傾向であり、外出が困難となってきているため、体調を考慮しながら屋上に上がり少しでも外気に触れることができるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望にあわせて、日用品やおやつなどを利用者・職員が交代で買い物にでる。ユニット内に、おやつショップを開いて買い物をしていただく事もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は各居室に設置している。季節に合わせて年賀状や暑中見舞いはがきや手紙等を利用者が書いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) カーテンは二重にしている。壁には利用者の写真や作品などを貼っている。テーブルの上は、出来るだけ季節の花を用意して話題の提供にも努めている。	
			(外部評価) 明るく広い居間には和室コーナーもあり、利用者が思い思いの場所で寛ぐことができる。壁には利用者と職員が一緒に製作した作品や行事などの写真が飾られている。アットホームな居心地の良い空間づくりを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 屋上の涼み台・和室・玄関フローアなど、自由な空間を用意している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に好きな家具・道具・品物等は持ってきて頂いて自由に設置をすすめている。居室は、本人の自由な空間なので危険がない限りは干渉はしていない。	
			(外部評価) 居室入口に今月のカレンダーと分かりやすい名札がかけられている。備え付けのベッドやダンス、エアコン、電話の他、利用者の使い慣れた家具や愛用していた物品が持ち込まれ、家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・風呂場の立位バー・廊下の手すりなど、必要に合わせて設置や表示している。日常生活の中で気づきがあった場合は本社に相談する事がある。	